ぼけても安心して暮らせる社会を

ぽ～れぽ～れ

【月刊】POLE-POLE スワヒリ語

2011年 11月号 No.376

1984年7月17日
第3種郵便物認可
「ぽ～れぽ～れ」通巻376号
2011年11月25日発行
（毎月１回25日発行）

「家族の会」電話相談
0120-294-456
月～金、10時から3時
［祝日は休み］

ゆっくり・やさしく
おだやかに

家族の会 きょう・明日

10/29支部代表者会議開催

震災から学んで「安心要望書」を広げよう

●ニュースと情報……2
●支部代表者会議……3
●大震災後最初の「全研」開く―― 長野……4
●会員さんからのお便り……6
●支部だよりにみる介護体験103……8
●“つどい”は知恵の宝庫55
仕事を続けたいが、嫁としてどうしたらよいでしょう……9
●新連載◎シリーズ「安心要望書」
解説①要望書の中心項目……10
●いきいき「家族の会」―まちでも村でも……11
●国際交流委員会発「ケアでつながる地球家族」……11
●連載⦿リレーエッセー【老いをめぐる私の想い】東海林幹夫……12
●ブロック会議「『安心要望書』に活発な意見」……13
●仲間と出会い話したい〈本人登場〉
「支援のあり方を考えるつどい」参加者のみなさん……14
●髙見代表の一筆啓上227……15
●事務局ほっとコーナー……15
●各地のつどい……16

●「介護中マーク」をきっかけに静岡県と協力体制……5
●十時弁護士のワンポイントアドバイス②……5

発行●公益社団法人 認知症の人と家族の会
Alzheimer's Association Japan
〒602-8143 京都市上京区堀川通丸太町下ル京都社会福祉会館内
TEL.075-811-8195 FAX.075-811-8188
ホームページ www.alzheimer.or.jp Eメール office@alzheimer.or.jp

（上）全国から700人が参加したホクト文化ホール
（下）開会挨拶をする関支部代表

シンポジウムは「働くこと」をテーマに

3人の人形も登場

大震災後最初の「全研」開く――長野

「認知症になっても笑顔のままで、震災からの復興、その道筋で、人々を励ます福祉制度のあり方を問う」のテーマで、認知症の人と家族への援助をすすめる第27回全国研究集会（全研）が10月30日、長野県ホクト文化ホールで全国から700人の参加のもと開催されました。

関靖支部代表および実行委員の世話人の１年数ヵ月にわたる御苦労と、長野らしさを示そうとする意気込みに、打たれました。また一方では、長野の「おっとりした優しい」文化に触れることができました。全研は関代表のユーモアに満ちた進行で始まりました。以下それぞれの発言の要旨です。

■基調講演　（長野県看護大学学長　阿保順子氏）

認知症が進んでいるとはいえ、人それぞれの個性が失われていくわけではなく、それぞれにパーソナルな関係とでもいえるような個別な関係を設定し「かかわりの場面」がみられます。

基調講演講師の阿保氏

他人を夫、妻と思って「かかわり合う」認知症の人の世界であり、自分探しの旅であり、フィクションを生きるお年寄りの世界です。重度になると影絵の世界です。

■事例発表

●介護家族の塚田一弘さん。「仕事と介護の両立を支援する制度を利用」して86歳の父を介護。支援制度を利用することがどんなに家族の支援になるか。認知症を考えることは、人間の生き方を考えること。

●信濃毎日新聞記者の小松恵永さん。77回連載のキャンペーンを通して、実名で報道することで読者の心に届き、大きな反響を呼びました。認知症は隠すものではないという意識を高め、多くの応援を得ました。

●特別養護老人ホーム施設長の福澤宏敦さん。臨時職員を正社員にすることにより介護の質の向上が図れ、断ることのない施設を目指したい。

●福島県の特別養護老人ホーム施設長の佐藤和子さん。原発事故さえなければ地域を離れずにすんだ。避難することは死を意味する、いつ戻れるだろうかと哀しい、つらい話が聞こえてきます。原発被害は日がたつにつれ大きく、先が見えない進めない今、安全神話、平和利用のからくりとごまかしを知りました。原発廃止と弱いものが大切にされる社会を！

シンポジストのみなさん

厚労省の勝又室長

長野県の小林課長

特養施設長の福澤氏

原発事故の状況を語る佐藤氏

■人形劇―人形が語る認知症―

（長野県　グループホームすみか）

３人（３体？）の人形を使った介護物語です。作り話を「ほんとの話だべ」と演じるおばあさん、汚れたパンツ隠しを得意とするおばあちゃん、外出大作戦（徘徊）を繰り返す頑固な元（げん）さんが登場しました。

人形になりきって上演するグループホームすみかの今村俶子氏

■特別発表

（大分・デイサービスセンター所長
平ケ倉文雄氏）

「家族の会」の「提言」が実現し、介護サービス利用中の作業報酬支払いが可能になったため、足立昭一さんが野菜販売に従事している実践を報告。

■シンポジウム

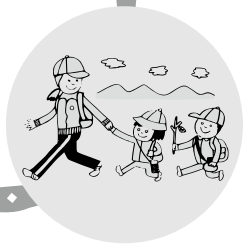
関代表をコーディネーターに、厚生労働省認知症・虐待防止対策推進室の勝又浜子室長、長野県健康福祉部健康長寿課の小林良清課長、福澤宏敦氏、佐藤和子氏、「家族の会」副代表勝田登志子氏を交えシンポジウムが行われました。

「働く」ことをテーマにして、介護労働者の給与ややりがい、専門職とは、その目標は、介護支援のあり方、見守りの必要性、早期診断・早期治療の標準化、地域・在宅の支え、国の負担率など、熱い議論が交わされました。

（編集委員　坂口義弘）

「家族の会」勝田副代表

会員さんからのお便り



新しい制度の検討が必要

三重県・Kさん　67歳　女

最近、15年間受診していた主治医が病院をやめられ、かかりつけ医から教えていただいた病院で診察を受けることにしました。MRIで詳しく診ていただきますが、特定疾患の持病の進行ではなくて、脳に原因があると思われるから神経内科の受診になると言われました。

それにしても、良心的な医師が次々と「介護保険認定審査会が主治医の意見書を無視して判定する」と怒りを表明されるのに驚きとともに、認定調査に使う経費をサービスの充実に回す時期に来ていると実感します。

イギリスの介護者法から学び、介護保険が利用者だけでなく、介護をする者が保護されるような改善が必至であると実感します。高齢者福祉の充実に向けて新しい制度の検討が欠かせません。

会報「ぽ～れぽ～れ」9月号

支部だよりに見る介護体験を読んで

香川県・Mさん　女

「老後は夫婦で楽しみたいと夢を膨らませていたのに…」「夫の入所で私は喪失感…」

私も同じ思いだった当時を思い出し、悲しく、寂しくなりました。が、今は違います。あなたはご主人様が入所したことで「してあげることはもう何もない」と思って、空の巣症候群に陥っていると思われているのでしょうか？

あなたのすることはまだ一杯あります。たとえば、顔を見ながら、話しかけながら手、足、背中、顔をマッサージするとか、足首、肩をもむとか。私の主人も、早くに言葉をなくし、不穏や暴力があるのですが、これを始めてからは、時々笑顔も見せてくれるようになりました。

「うつになりそう」と書かれていますが、私もうつ病になりました。だから言えるのですが、早めに受診して、いろいろ対策を立てて乗り切ってください。

「入所は夫からのプレゼント」で前向きに生きていこうとしていることに安心しました。ご主人様からのプレゼントを大事に、今を大切に生きてください！　頑張らなくていいから、あきらめないでください！

オーストラリアに学ぶ vol.1

編集委員　鷲巣典代

「ただ今、授業中」

平均寿命が日本に次いで世界第２位の国、オーストラリアの医療・介護・福祉の状況を体験したいと考え、メルボルンにある高齢者ケアの資格を取る学校に来ています。

オーストラリアの高齢化率は現在13.7％ですが2030年後半までには20％を超えると予測され、高齢社会に向けて、様々な取り組みが展開されています。

認知症に関する活動も活発です。この学校でも「認知症」は独立した単元で、テキストも１冊分あります。また、家族そして専門職双方の介護者支援についても、かなりの分量があり、政府の資料だけでなくアルツハイマー病協会などの意見や調査が多く取り入れられています。オーストラリアのアルツハイマー病協会が「認知症を国の保健医療の最優先課題に」と訴え続けてきたことの成果かもしれません。

授業中「本人尊重と介護者支援がこれだけ強調されているのに教科書に本人の直接の言葉がないのは少し物足りない。日本の学校教育の中に本人や家族が参加する機会が増えればいいなあ」などと考えていたら突然、先生から質問。考えごとをしている間に、講義はどんどん進んでいて答えに窮し冷や汗をかきました。

３月まで、授業と施設実習が続きます。この国と日本の「知恵の宝庫」がつくれたらなどと夢みつつ、下降線をたどる記憶力、集中力をかき集める毎日です。

つくづく思うこと

京都府・Kさん　77歳　男

震災の被害を受けた方々のことを思うと胸が痛みますが、つくづく思うのは①大自然に対し、畏敬の念を持つべきだ②私たちは便利さだけを求めおごっていたことを反省すべきだということです。

これから成長する若者に対し、しっかりと遺言して、静かに消えていきたいという心境です。ぼけるのか、ガンに見舞われるのか、どちらであっても自然体で受け入れるようガンバリマス。

「つながる会」であってほしい

埼玉県・Fさん　41歳　女

この度の震災にはただただ、一日も早い安全と平和を祈るばかりです。多くの方が津波で命を失われましたこと、ほとんどがご高齢であったことを考えますと、言葉も出ません。

「家族の会」が東北への連絡などを早くに取られましたこと、本当に、どんなに心の支えになったことだろうと思います。これからも全国でつながる会であってほしいと思います。

つながる「家族の会」〔最終回〕

東日本大震災義援金

感謝の声が届いています

たくさんのお礼状をいただきありがとうございました。

老人と共に埼玉県へ一時避難

福島県・Mさん　男

義援金を送っていただき、本当にありがとうございました。髙見代表はじめ会員の皆様に心より感謝申し上げます。

3月11日、私はいわき市の老健施設で勤務中でした。大きな揺れにもかかわらず幸い建物の被害は少なく、海から700mの位置でしたが津波も施設には届かず難を逃れました。しかし、施設は原発から35㎞で、放射能問題でパニック状態に陥りました。停電はなかったのですが、断水、食料、医薬品が届かない、オムツ等介護用品不足、ガソリン不足で職員が出勤できず勤務体制が組めない、等の状況に追い込まれ、埼玉県の病院と老健へ53名の老人を連れて非難しました。それから約2ヵ月後にいわき市の施設に戻り、老人たちも落ち着きを取り戻したところです。

私個人の自宅は原発から20㎞の浪江町にあり、警戒区域で自宅に戻ることはできません。震災後一度も自宅に帰れず、着の身着のままの避難です。これからの生活が大変ですが、皆様から受けたご恩に報いるよう頑張っていく所存です。

明るく過ごしています

宮城県・Wさん　女

この度は私個人にも義援金を頂戴し、大変有難く、感謝しています。わが家も他の多くの方々と同様に大きな被害に見舞われ、大規模半壊と判定されました。くよくよしても始まらず、奮い立たせて明るく過ごしております。「翼合唱団」で歌うことにより、私も元気をもらっています。

福島県・小沢美代子さん

●転げ落ち小槌もげたる赤べこの
　地震の中で首振りており

●一枚のパンを分かちて避難所に
　過ごす人をば　忘れず生きむ

●「原子力明るい未来のエネルギー」
　廃墟の町に看板残りぬ

新連載

シリーズ
「認知症の人も家族も安心して暮らせるための要望書」

解説1 要望書の中心項目

田部井康夫
「家族の会」理事、
介護保険・社会保障専門委員会委員長

今年４月、厚生労働大臣に申し入れた「認知症の人も家族も安心して暮らせるための要望書」。介護保険制度だけにとどまらず、医療やまちづくり、環境整備を含めた内容が大きな反響を呼んでいます。今回から、「安心要望書」の解説と各界からの意見を連載します。

「家族の会」は、「提言」で、介護保険を含む社会保障のあり方について、次のような見解を示しました。

●基本的な考え方

1．認知症があっても一人暮らしでも希望する自宅で、また施設でも安心して暮らせる制度へ
2．早期から終末期まで、切れ目ない支援体制を整備すること
3．認知症があっても“笑顔”で生きられる支援体制を整備すること
4．介護に従事する人材の育成と確保のために待遇改善を継続的に図ること
5．暮らしを支え、生活を保障する社会保障制度へ
6．高福祉を応分の負担で

●介護保険制度の基本的な方向性

一．必要なサービスを、誰でも、いつでも、どこでも、利用できる制度
二．わかりやすい簡潔な制度
三．財源を制度の充実のために有効に活用する制度
四．必要な財源を、政府、自治体が公的な責任において確保する制度

この考え方に沿って、認知症の人と家族の生活にとって必要な施策を包括的にまとめたものがこの「安心要望書」です。基本的な考え方とそれを具体化した要望書は、「家族の会」が、介護保険制度や社会保障についての活動を進める際の指針となります。

「安心要望書」は、Ⅰ．介護保険制度への要望　Ⅱ．若年期認知症・認知症と診断された本人への支援について　Ⅲ．家族介護者支援について　Ⅳ．医療の充実と制度改善について　Ⅴ．まちづくり・環境整備について　の５項からなっています。次に、今議論になっている論点を中心に解説します。

▶要介護認定と支給限度額のあり方について

「家族の会」の要介護認定の廃止（支給限度額の撤廃を含む）とそれまでの経過措置についての提案は、継続した課題です。加算が増え利用者負担が増加することと限度額は密接に関連しています。機会を捉えて提案を続けて実現を目指します。

▶介護予防・日常生活支援総合事業の実施について

市町村が要支援の人等を対象に、介護保険給付とは別のサービスを提供できる新しい施策です。新しい施策は、より充実したサービスを保障するもの、利用者の選択肢を広げるものでなければなりません。

「家族の会」は、従来の介護保険サービスと新しい総合事業とのいずれを利用するか、利用者が選ぶことができるものにすべきであると要望しています。

▶認知症連携担当者と認知症地域支援推進員について

認知症の人を地域で支えるコーディネーターである認知症連携担当者は、認知症地域支援推進員に代わりました。市町村に配置されますので、どんな人が、どんな形（専任か兼任か等）で配置されるのか、必要なときに必要な活動ができる体制が保障されるよう働きかけましょう。

▶定期巡回・随時対応型サービスと滞在型訪問介護の強化

訪問介護・看護に新たな選択肢が加わるのであれば反対する理由はありません。しかし、既存の制度との違いがわかりにくいこと、これまで夜間訪問が十分に機能しなかった原因の解決や地域密着型が有効に機能するのかなど、大きな課題が残っています。また、定期巡回・随時対応型は認知症の人に合った施策とはいえません。認知症の人の在宅生活を支えるために、滞在型の時間の延長を求めてゆく必要があります。

いきいき「家族の会」まちでも村でも

街頭活動に２歳の助っ人が参加

群馬県支部

９月に行われたアルツハイマーデーの街頭活動では２歳の女の子が大活躍してくれました。ご家族で参加の会員の子どもさんで、道行く人に女の子が笑顔で「おねがいしま～す」とリーフレットを差し出すと、思わず受け取ってくれていました。また、和紙の楊枝入れも一緒に配布しましたが、それも効果があり、用意した400枚のリーフレットを全部配布することができました。夏のような暑さの中、参加した会員の奮闘に改めて感謝の気持ちが湧いてきました。

台風被害に支部からも安否確認

奈良県支部

台風12号の豪雨で大きな被害を受けた奈良県十津川村。そこにはお一人「家族の会」の会員がおられ、村で唯一のグループホームの施設長をされています。

心配した屋敷芳子支部代表が電話をしたところ、入居者も職員も皆大丈夫だったとのこと。その後も次々と悪天候が続く中でも、その会員の方は凛とした声で頑張っていました。

支部では、被害を受けた地域の心配をしながらも、つらい中でも仲間とのつながりを大切にしたいと活動を続けるのでした。

祝 30 周年記念式典

滋賀県支部

支部では８月に結成30周年の記念式典とレセプションを催しました。レセプションには30年間支部に関わりがあった人々が集まり、あちこちで「久しぶり」と旧交を温め、楽しい話し声が会場内で響いていました。

途中挨拶にたった支部の初代代表の猿山由美子さんは、「『家族の会』は継続が命。そのためには、ぼちぼち続け、自分のためではなく人のために」と話され、支部の世話人たちは身が引き締まる思いに。

最後は皆で「家族の会」の理念を唱和して、会を締めくくりました。

支部が「保健文化賞」受賞

山梨県支部

毎年、保健医療や高齢者保健福祉などの分野において、著名な実績を残した団体などを表彰している今年度の「保健文化賞」（主催：第一生命保険株式会社）を、山梨県支部が受賞することになりました。これは多くの人々の推薦を受け、また20年間の活動が評価されての受賞です。10月末に表彰式や皇居での天皇皇后両陛下への拝謁などが執り行われます。参列できる支部関係者は限られていますが、参列者は、「会員の皆さんの心と働きを背負っての参列」と改めて感謝の気持ちを抱きました。

国際交流委員会発 アメリカの巻（ハワイ）
「ケアでつながる地球家族」

■介護保険は任意制

「家族の会」会員、ハワイ在住で日系ラジオ局Kzooのとっても素敵なアナウンサーである上原美砂さんからの依頼で、マキキ聖城キリスト教会で認知症についてお話しすることとなり、アルツハイマー病国際会議（ICAD2011）の出席にあわせて、ハワイに行ってきました。

ハワイでも高齢者は、認知症になることの不安を感じているようです。日本と違い、介護保険は任意制なので診療も介護もまかなってくれるグループ保険を選択して、病院、介護施設を選ぶことが多いとのことです。彼女の案内で施設を見学しましたが、月８千ドルもする高額な施設から、安価なところまでさまざまで、ホテルのような200㎡くらいの居住空間にダンスホール、立派なレストランや駐車場完備のところや認知症の症状によってフロアが２階から５階まで異なるところもあります。また、看護師さん経営のグループホームもシェフが居て、食べたいものを注文できるサービスもありました。（国際交流委員　片山禎夫）

ラジオに出演中の片山委員

本人登場

仲間と出会い話したい

今月の本人

支援のあり方を考えるつどい
（第5回　全国本人交流会）参加者のみなさん

「支援のあり方を考えるつどい」（第5回全国本人交流会）が10月14日～16日に富山県朝日町笹川で開催されました。これは2006年の本人会議で出会った仲間が「また、集まりたいね」の声に勝田登志子「家族の会」副代表が笹川の自宅を開放して2007年より始めたものです。

今回は国の補助事業での開催で、私は初めて参加しました。笹川のもつ場とぬくもりが人を元気にすると思いました。昔の日本とでもいうような山があり、川があり、いろりのある茅葺の広い家で、富山県支部の村井和恵代表ほかみなさんのこころあたたまるもてなしに、参加した本人11名、ほか家族、サポーター、スタッフ合計38名は、さまざまな場面での交流で勇気と元気を得た3日間でした。

私の見た本人の思いや心配り、助け合いの様子を紹介します。（編集委員長　鎌田松代）

字がわからないし、どうすればいいかわからないけど、目標探しに来ました
（富山A子さん）

▲笹川の町と山、左奥は宿泊地の「共生の郷」

大阪から参加の中静弘子さん（67歳）は、笹川の家に着きましたら、すでに到着していた富山のA子さん（60歳代）を見つけ「ひさしぶりやね」と玄関先で抱き合い再会を喜ばれていました。

▲公開講演会で思いを話す。中静弘子さんと夫の誠さんご夫妻。

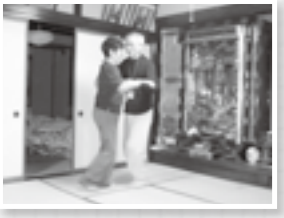
私（鎌田）は中静さんの入浴支援の担当でした。困っておられそうな時に声をかけ、手伝いましたが、これでいいのか迷っていました。髪を乾かしすべて終了した後に、「助かったわ、ありがとうね、肩をもんであげる」と私の肩をもんでくださいました。前日も温泉につかりながら「私は娘の肩ももむのよ、あなたももんであげる」ともんでくださいました。中静さんの思いやりやお礼の気持ちがうれしい幸せなひとときでした。

富山の山本きみ子さん（61歳）は、場所がわかりにくい広島の太谷智也子さん（67歳）のしぐさを見ては、トイレまで何回も案内されていました。

◀思いを話す山本きみ子さん

▲いろりを囲んで料理をつくり、話がはずみ心がなごむ

ずっと不安げな表情の初参加の新潟のB子さん（30歳代）に、A子さんはいつも気にかけて、声をかけておられました。B子さんの表情は時間の経過とともに笑顔が増えていきました。



▲仏間でダンスの田渕ご夫妻

タンゴの音楽が鳴り出すと妻の節子さん（66歳）の手をとり軽やかなステップで踊りはじめた田淵保夫さん（64歳）。その華麗なダンスは、参加者を魅了しました。

情報コーナー　交流の場

宮城◉12月1日・15日㈭ 午前10:30～午後3:00／若年期認知症のつどい→仙台市泉社会福祉センター

埼玉◉12月17日㈯ 午前11:00～午後2:30／若年のつどい→越谷中央市民会館→参加費100円

富山◉12月3日㈯ 午後1:00～3:30／てるてるぼうずの会→サンフォルテ2階介護実習室

滋賀◉12月14日㈬ 午前10:00～午後2:00／ピアカウンセリング→滋賀県成人病センター職員会館2階

愛知◉12月10日㈯ 午後1:30～4:00／元気会（若年認知症）・本人交流会→東海市しあわせ村

鳥取◉12月25日㈰ 午前11:00～午後3:00／若年のつどい「にっこりの会」→地域交流センター笑い庵「笑い庵カフェ＆マルシェ」（米子市）

広島◉12月10日㈯ 午前11:00～午後3:00／若年期認知症・陽溜まりの会広島→中区地域福祉センター（広島市）

12月24日㈯ 午前11:00～午後3:30／若年期認知症・陽溜まりの会西部→あいプラザ（廿日市市）

宮崎◉12月12日㈪ 午前11:00～午後2:00／本人交流会「今日も語ろう会」→宮崎県支部事務所

詳細は各支部まで

愛都の会・定例会◉12月11日㈰ 午後1:00～4:00／連絡先：06-6972-6491

◆◆◆各地のつどい◆◆◆

事前に支部へお問い合わせの上ご参加ください。なお、つどいの情報は14ページにも掲載されています。

北海道
▶11月27日㈰ 午後1:30～4:00／若年のつどい→札幌市かでる2.7　1030会議室
▶12月5日㈪ 午後1:15～3:30／つどい→札幌市かでる2.7　910会議室
▶12月5日㈪ 午後1:00～3:00／つどい→奈井江町保健センター2階和室
▶12月15日㈭ 午後1:30～3:30／つどい→むかわ町穂別健康センター

青森
▶12月17日㈯ 午後1:30～3:30／八戸のつどい→八戸ポータルミュージアム「はっち」5階

岩手
▶12月14日㈬ 午後1:30～3:30／滝沢のつどい→老人福祉センター（役場裏）
▶12月17日㈯ 午後1:00～3:00／岩手町のつどい→ゆはず交流館
▶12月24日㈯ 午後1:30～3:30／盛岡のつどい→アイーナ

山形
▶12月10日㈯ 午前10:00～正午／庄内のつどい→酒田・総合文化センター
▶12月24日㈯ 午後2:00～4:00／山形のつどい→山形市市民活動支援センター（霞城セントラル22階）

福島
▶12月3日･17日㈯ 午後1:30～3:30／いわき地区会定例会・相談会→平老人福祉センター
▶12月13日㈫ 午後1:30～3:30／会津地区会定例介護相談会→天神ふれあいセンター

茨城
▶12月2日㈮ 午後1:00～3:00／つくばのつどい→つくば市大穂地域交流センター
▶12月9日㈮ 午後1:00～3:00／水戸のつどい→茨城県水戸合同庁舎内会議室

栃木
▶12月28日㈬ 午後1:30～4:00／相談会・つどい→とちぎ健康の森2階会議室

埼玉
▶11月26日㈯ 午後1:30～3:30／与野のつどい→特養「きりしき」
▶11月30日㈬ 午前10:00～正午／深谷のつどい→深谷市産業会館→支部に要申込
▶12月1日㈭ 午前11:00～午後2:00／浦和のつどい→サンビュー埼玉1階会議室

東京
▶12月5日㈪ 午後1:00～3:00／つどい→東京都支部事務所→「何でも話しましょう会」

石川
▶12月12日㈪ 午後1:00～4:00／つどい→金沢市松ヶ枝福祉館

福井
▶12月10日㈯ 午後1:30～3:30／つどい→ふくい県民活動センター706会議室

滋賀
▶12月20日㈫ 午後1:30～3:30／さつき会→滋賀市民センター
▶12月27日㈫ 午前10:00～11:30／あやめ会→晴嵐支所1階会議室

京都
▶12月18日㈰ 午後1:30～4:00／つどい→京都社会福祉会館

兵庫
▶12月10日㈯ 午前11:00～午後3:30／つどい→神戸勤労会館多目的ホール他

奈良
▶12月7日㈬ 午後1:00～3:30／北和のつどい→学園前西部公民館
▶12月14日㈬ 午後1:30～3:30／南和のつどい→大淀町役場202会議室

鳥取
▶12月9日㈮ 午前10:00～正午／東部のつどい→さざんか会館（鳥取市）
▶12月13日㈫ 午前10:00～正午／西部のつどい→ふれあいの里（米子市）
▶12月15日㈭ 午前10:00～正午／中部のつどい→倉吉交流プラザ（倉吉市）

岡山
▶12月9日㈮ 午後1:00～3:30／岡山地域のつどい→岡山市保健福祉会館4階
▶12月15日㈭ 午後1:00～3:00／井笠地域のつどい→笠岡市認知症介護研修センター
▶12月10日㈯・23日㈮･祝 午前10:30～午後0:30／倉敷地域のつどい→くらしき健康福祉プラザ

広島
▶12月3日㈯ 午後1:30～3:30／出前定例講演会→広島市南区役所別館4階

香川
▶12月7日㈬ 午前10:00～正午／介護者のつどい→旧女性就労支援センター
▶12月17日㈯ 午前10:00～正午／男性介護者のつどい→旧女性就労支援センター

愛媛
▶12月12日㈪ 午後1:00～3:00／中予地区のつどい→愛媛看護研修センター
▶12月14日㈬ 午後1:00～3:00／東予地区のつどい→西条市総合福祉センター
▶12月14日･28日㈬ 午前11:00～午後1:00／南予地区のつどい→城辺保健福祉センター

宮崎
▶12月17日㈯ 午前11:00～午後2:00／つどい→宮崎県支部会議室
▶12月4日㈰ 午後1:30～3:30／男性介護者のつどい→宮崎市総合福祉保健センター視聴覚室

2011年度賛助会員の方々⑧

(11.9.1～9.15)

〈福　祉〉特別養護老人ホーム矢掛荘（岡山）▲グループホーム小倉ゲンジョウ（大分）
〈医　療〉大野浦病院（広島）
〈個　人〉出町宗洋（青森）
〈その他〉財団法人こころすこやか財団（青森）▲エーザイ株式会社東北エリア企画部長（青森）▲エーザイ株式会社関信越エリア企画部長（栃木）▲NPO法人サークル円（長野）▲中四国エリア企画部長（山口）

杉山孝博副代表が6時間にわたって講義します。

●研修講座　「認知症の理解と援助」
滋賀：12月11日㈰　　2012年兵庫：2月12日㈰　　広島：3月11日㈰
●医学講座　「高齢者介護・看護のための医学基礎知識」
島根：12月4日㈰
●ターミナルケア講座　「介護・看護専門職のためのターミナルケア」
2012年神奈川：3月18日㈰

編集委員の窓

先月のこの欄を担当した鷲巣編集委員は今、オーストラリア滞在中です。しかし、今月の編集会議にもいつものように参加して、みんなと活発に意見交換しました。スカイプというインターネット電話のお蔭で、鷲巣さんの姿が、こちらの会議室の壁に映し出され、逆にこちらの会議の様子も鷲巣さんのパソコンで見えています。編集作業中の文の1字1句まであちらでも同時に読めますし、声はほとんど時間差なく、いつもの会議と同様に喧々諤々、やり取りできるのです。喉が渇いて、こちらがコーヒーを飲んでいると、彼女も自分でコーヒーを入れて飲んでいます。そのカップの絵模様まで日本から見えるのですから、すごいことです。電話代高額？　いえいえ、インターネットですからタダです。来年の3月までこういう形で編集会議をして、皆さんのお手元に会報をお届けします。

（編集委員　山添洋子）

発行所●公社団法人認知症の人と家族の会 Alzheimer's Association Japan　〒602-8143 京都市上京区堀川通丸太町下ル京都社会福祉会館内　TEL.075-811-8195　FAX.075-811-8188
発行人●代表理事　髙見国生　編集人●会報編集委員会（委員長　鎌田松代）
定　価●1部200円（送料20円）［会員の年間購読料は会費に含まれます］　郵便振替口座番号　01050-3-47146
編集協力●株式会社クリエイツかもがわ　印　刷●新日本プロセス株式会社　［転載時は本部事務局にご連絡下さい］

「本人と家族と社会をつなぎ
勇気をあたえるぽ～れぽ～れ」

オートレース Auto Race
財団法人ＪＫＡ
補助事業
この会報は、財団法人ＪＫＡの補助を受けています。

本誌発行経費の一部について協力を得ています。　エーザイ株式会社　ファイザー株式会社